



先月号の表紙はご覧になりましたか？表紙の新シリーズとして「町の川」をテーマにしました。大きな川から小さな川まで、町にはどんな川があるのでしょうか…

館報 まつかわ

松川町公民館報
第655号
平成30年5月15日

町の川 ②
天竜川(台城本丸上空から)

資料館の伊坪先生のお話を
お聞きして、自分の知らない
松川町の歴史に初めて触れる
ことができました。昔は生田
村や大島村、部奈村などそれ
ぞれに分かれていて残ってい
る資料、わかつている歴史等
も地域によって様々のよう
です。古い蔵の中などに昔の文
書や何年も前の松
川に関するものが
残っていることを
聞いてとても驚き
ました。伊坪先生
はそれらの資料を
集めて、松川町の



原 部員



資 料 館



歴史を今でもつなぎ合わせ
てくれています。楽しそうに
松川の歴史や新たな発見を
した時の話をする伊坪先生
がとても印象的でした。
自分自身も松川町のこ
とをもっと知っていき
たいです。

今回、古文書のことを多く
話していただきましたが、古
文書というと難しく読めない
というイメージで、歴史が苦
手な私には縁遠い物だと思っ
ていました。伊坪先生から資
料館や町内の家にあった資料
などから、「昔有名な人がこ
の町を通って行った」など興
味を持つような話をしていた
だいたり、古文書を読む会な
ども簡単な漢数字のような
所から始めたりするようで、
話を聞いているうちにだんだ
んと難しいイメージが変わっ
ていきました。

時こんなことがあったのかと
見入ってしまうように、日記
や地域の昔あった出来事の資
料と思えば、初めから敬遠す
ることなく身近な物に感じる
と思いました。

町の良さや歴史を小さいう
ちから知ってもらいたいと本
を作る話をしてくれました
が、多くの町民の皆さんが町
の歴史について興味を持つ機
会が今後増えれば良いと思
いました。



宮崎 部員

始めまして、伊坪先生。
今、先生は松川町の古文書
を整理しながら、初心者にも
分かりやすく説明する講座で
お話をしてくれています。

伊坪先生が古文書と出会っ
たのは、社会の教師になると
いう目標をもった大学生の
頃。

日本の歴史を学ぶため古文
書を読むことになって：でも
まるつきり分からなかったそ
うです。合宿で仲間と協力し
たり、個人の家に泊まり込ん
だり、古文書探しもしたりと
とにかく必死に取り組まれた
そう。

古文書の文字は、役所など
への正式書類は読みやすく、
自己流の物は分かりにくい。
そのため後まわしにすること
も。

理屈ではなく数多く目にし
ることで読めることに近づけ
るようです。

このお話も身振り手振りを
まじえて、とても楽しそうに
話され、聞いて
いる私も、古文
書への興味が大
きくなりました。



宮下(か) 部員

未来を知るヒント

松川町の歴史を学ばな
ら、まずは松川町資料館。
そんな資料館の仕事や、
保存されている昔のいろ
いろな書類、物などの大
切さを、資料館職員の



伊坪 達郎 さん

松川町資料館職員の伊坪達郎さん。町の史料（古文書）を読み、それを整理したり、町民に伝えたりする仕事をされています。歴史の知識や関心が高い伊坪さん。飯田下伊那でも歴史を後世に伝えるために活躍されています。

そんな伊坪さんでも、はじめは古文書の文字が全く読めなかったというのには驚きました。もちろん、習ってもしないのにはじめから読めるわけではないのです。が、こんなに活躍される人でも第1歩があるのだと改めて感じ、まずはやってみることが大事なのだと思いがされました。

資料館というところは、

人々の「知りたい」という気持ちにこたえる役割もあり、伊坪さんはそれにこたえようと活動されています。

たとえば昔の難しい文書を、初心者にもわかるように伝える努力もされてきました。

また、古い民家から見つかった史料を整理するには、ほこりまみれになったり手が汚れたり大変なこともあります。しかし、町の歴史を知るためには大切な仕事で、何万という史料を整理してきました。「町民が知りたいときに役立つように」との思いをとても強く感じました。

知ることは今

伊坪達郎さんからお聞きしました。この館報まつかわでも、毎号「松川町今昔」を書いていただいている方です。



宮下(と) 部員

先生の話を聞き、古文書と研究者との出会いは運命的なものだと感じた。

世の中にあまたあったであろう貴重な古文書も、家の建て替えなどに伴ってその多くが灰燼に帰してしまおうという。蔵のとり壊しなどの情報がたまたま研究者に入り、期日に間に合った時初めて二者が出会う。しろうと目には落



光澤 部員

書きのような古文書にも歴史を裏付ける記述があったり、ふすまの裏張りなどにも興味深いものが隠されていたりするそう。これらを見いだすには専門的な知識と嗅覚と経験が不可欠だ。

貴重な内容を持ちながら無念の思いで消滅していった古文書たちに思いを馳せ、現存する古文書に多くの運命的な出会いが訪れることを切に願う。

史料は、何の変哲もないように見えるものでも、昔の人たちの生活が見えてくる貴重なものだと教えていただきました。有名な歴史上の人物などは記録が多い場合がありませんが、ごくごく一般の人たちの生活というのは、なかなか記録がありません。しかし、そんな一般の人たちの様子が読み取れる資料が、一般家庭の蔵などから見つかることもあるそうです。特に家を建て替えるときなどは、史料が出てきたら簡単に捨ててしまわないで、資料館に声をかけてほしいそうです。ちよつとした文書から、当時の人のつながり、生活、時代背景などを読み取れる場合があるので

古文書というと江戸時代、あるいはもっと前のものばかりを想像しますが、明治・大正・昭和のものも、今後は貴重な史料となっていくと思います。将来の町民が「知りたい」と思ったときに役立つよう取り組み伊坪さん。史料の大切さを何度もうたえかけていたことに心を打たれました。

平成30年度 公民館関係の組織構成

教育委員会

スポーツ推進委員会

委員 井口由紀子(北垣外)
委員 寺澤美佐子(間沢)
委員 宮下 智博(西山)
職務代理 林 元春(町谷)
教育長 高坂 敏昭(中の村)
社会教育委員会
委員長 小島 慎司(中央第2)

副委員長 山岸佐貴子(中荒町)
委員 山田 淑子(堤原)
委員 山田 裕一(松川)
委員 中村 尚子(清泉地上)
委員 小林 嘉明(北小学校)
委員 光澤 正之(北小PTA)

公民館運営審議会
会長 坂本 勇治(議会)
委員 熊谷 宗明(議会)
委員 渡邊 浩(中学校)
委員 小林 嘉明(北小学校)
委員 宮沢美輪子(女団連)

委員 山田 俊文(社協)
委員 植田 隆一(中学校PTA)
委員 光澤 正之(北小PTA)
委員 小島 慎司(社教委長)
委員 山岸佐貴子(社教委長)

委員 山田 裕一(社教委員)
委員 宮下 保(体育協会)
委員 木村 寛(文化協会)
委員 塚本 聡(学識経験)
委員 堀木 拓也(学識経験)

部員 寺澤 陽平(寺沢)
部員 川又 嵩公(原田)
部員 齊藤 健真(大島上部)
部員 水谷 遼(中央二)
部員 関 優那(大島南部)
部員 高坂秀太郎(城)
部員 今村 剛弘(檜原)
部員 神田 康憲(上町)
部員 高坂 政憲(中の村)
副部長 木下亜由美(増野)
部長 大島 崇(古町東部)
(体育部)
部員 前田 覚(宗源原)
部員 香山純一郎(城北)
部員 峯垣 稔之(松川)
部員 清水 一貴(中荒町)
部員 和田 章吾(宗源原)
部員 知久 伸也(増野)
部員 小笠原章文(宗源原)
部員 細田 勲(郷原)
副部長 熊谷 拓也(増野)
部長 小林 鉄也(清北)
(社会部)
部員 北澤 晃也(宗源原)
委員 丸山 政子(桑園東部)
委員 宮下千代子(桑園中部)
委員 川上 智明(諏訪形)
副会長 水野 淳(檜原)
会長 松下 善幸(長峰)

平成30年度 松川町公民館 関係者名簿

○ 地区協議会役員

	協議会長	主事	主事補
大島地区協議会	笠原 武明	宮下 紘一郎	松尾 寿司
上片桐地区協議会	山崎 隆	松尾 久志	山岸 義司
生田地区協議会	杉山 行孝	下平 正弘	

○ 地区公民館役員

地区館名	役職 館長 [副館長] (会 計)	主事 [主事補]	社会部長 社会部副部長	体育部長 体育部副部長
古町地区公民館	小沼 哲夫	松村 圭 橋場 一成	寺沢 成幸 平島 高之	大島 宗孝 高橋 純一
上新井地区公民館	福島 清美	赤須 圭一 大蔵 政紀	栗畑 孝弘 佐々木 文弘	米山 裕樹 吉田 寛行
名子地区公民館	笠原 武明	菅崎 哲 遠山 哲生	中平 勇 田中 伸幸	今村 哲也 宮島 大助
上大島地区公民館	矢沢 俊夫 (宮下篤史)	桜井 秀樹 [水野 淳]	矢沢 峻 矢沢 靖人	西村 崇 大場 政輝
上片桐地区公民館	山崎 隆 [細田 武] (山岸義司)	松尾 久志 [山岸義司]	安藤 和夫 下原 浩人	宮澤 勇貴 米山 春彦
福与地区公民館	大島 龍男 (高塩俊和)	清水 信一	森本 慎一 田澤 孝夫	久保田 拓 園田 勉
生東地区公民館	塩澤 澄夫	橋場 龍司 [下澤和司]	塩倉 智文 下澤 健治	下澤 達則 清水 陽治
部奈地区公民館	杉山 行孝 (井澤 顕)	下平 正弘	林 克好 唐澤 八重子	林 直志 中川 桂枝

(編集部)
部長 米山 拓也(下垣外西)
副部長 中島 李野(宗源原)
部員 宮下 徹(弥久司)
部員 宮下 和子(上町)
部員 宮崎亜希子(馬坂)
部員 松下 佳史(城北)
部員 光澤 正之(清泉地一)
部員 大久保康司(中荒町)
部員 大東 洋文(檜原)
部員 原 美保子(南方)
教育委員会事務局
(生涯学習課関連)
教育長兼図書館長兼資料館長 高坂 敏昭
生涯学習課長兼社会教育主事 福島 敏美
公民館長 小澤 誠
生涯学習・男女共同参画係長 片桐比呂巳
社会教育主事兼公民館主事 大澤 達也
公民館主事 北原 正将
社会教育指導員 松村 京子
社会教育事務補助員 名子原体育館管理 松下 勝子
(ハーフマラソン担当)
北原 正尚 福与体育館管理 高坂美智子
篠田 俊幸 旧東小学校管理 赤城 昭一
生涯学習課長兼社会教育主事 地域おこし協力隊員 (ホストタウン担当) 白井 瑞穂

松川町今昔

資料館だより

◆第23回◆

「伊那街道を通った人たち(1) 雷電為右衛門」

江戸時代の伊那街道は、たいへんにぎやかで、色々な人が通行したり泊まったりしました。ここでは上片桐新井家に残されている「亀屋記録」に出てくる人を紹介します。

今回は今迄の相撲取りの中で最も強かったと言われる長野県東御市出身の江戸相撲大関の雷電為右衛門が伊那街道を通行した時のことを紹介します。

雷電は飯田の長源寺で興行するために、2回伊那街道を通行しています。1回目は文化2年(1805)8月のこととす。この時雷電をはじめ関脇・小結・前頭の相撲取り、それに行司木村庄之助らを含め43人が来たようです。飯田の町での興行は大入りで、勸進元はかなりお金が入ったようです。ところで相撲取りたちが田舎へ出かけたのにはわ

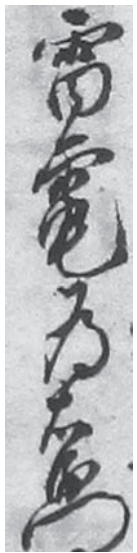
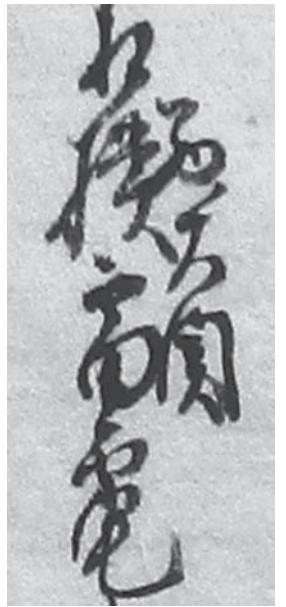
けがあったようです。その年の春、

江戸で相撲取りと火消の間で喧嘩があり、相撲の興行が

停止となったため、田舎へ出かけて興行をしていたのとことです。雷電を見たいと人々は集ったようです。

2回目は7年後の文化9年(1812)8月のことでした。先触れが来て上穂・飯島・片桐・大島の四か宿の代表たちが集って相談をしました。荷物などは運ぶが、相撲取りをのせて運ぶのは困ると、飯田町本町問屋の伊勢屋と懸け合

ました。結局雷電をはじめ5人は、大変大きな相撲取りなので、駕籠に乗せて運ぶということになりました。一つの駕籠に6人の人足を付け、人足代も増額することでまともになりました。ところが、雷電が駕籠は嫌いだと言いだし、またまた宿場の人たちは集って相談することになりました。また飯田の問屋などと懸け合ううちに、馬で送ることにな



勢屋と懸け合

松川中学校

1年1組 富永 暖

1年3組 竹島 あかり

今日は初めての係会がありました。クラスごと話し合う時にしっかりと自分の意見を言えたので良かったです。これから学年で集まると、統率係が仕切るのが増えるのでちゃんと班をまとめられるように頑張ります。他にもたくさん

金曜日は、他己紹介や自己紹介がありました。他己紹介ではとなりの人の紹介をしました。聞いてみると予想と同じものもあつたり、面白いこともあつたりして面白かったです。

1年2組

細江 紗也香

私は友達と話すのが大好きです。小学校の6年間でできた友達とは、長い時間一緒にいたからか、いつの間にか仲間になれたように思います。でも中学は別の学校が加わるのでどうやって話していいかわからなかったけど、勇気を出して声をかけてみたら意外とうまくいってすごうれしかったです。保育園からの友達やクラスが違うけど仲のよかつた友達と一緒にクラスになれて、北小の人とも仲よくなれてすごうれしいです！

人権問題を考える

みんなよく仲良

1年4組 片桐 ひかり
生徒会に入会しました。先輩から学校のことをオリエンテーションをしてもらい、より色々なことが分かりました。

生徒手帳をもらい、松中の生徒になりました。委員会もたくさんあり、小学校のときよりもレベルが上がりました。学校のことは細かいところまで分担してやるんだなーと思いました。今日は、初めて「友達」ができました。私からは、話しかけることができなかったけれど、とてもうれしかったです。もっとたくさんつくられたらいいな!!と思います。

松川町資料館

伊坪 達郎

第14回 長野県市町村対抗小学生駅伝競走大会

4月28日(土)

松本平広域公園陸上競技場発着

松川町 23分20秒

町の部 第6位 総合 第19位

出場選手・結果

第1区

1.55km 伊藤 優 楽 (北小6年)

第2区

1.50km 福島 圭 亮 (中央小6年)

第3区

1.50km 中村 琉 乃 (北小6年)

第4区

1.55km 佐藤 颯 (中央小5年)



第28回 長野県市町村対抗駅伝競走大会

4月28日(土)

松本平広域公園陸上競技場発着

松川町 2時間34分51秒

町の部 第7位 総合 第33位

出場選手・結果

第1区	2.03km	佐藤 悠 花
第2区	2.92km	北村 隆之介
第3区	5.19km	松山 准 也
第4区	5.78km	久保田 隼 仁
第5区	6.12km	林 龍 介
第6区	3.02km	佐藤 綾 花
第7区	2.17km	近藤 皓 哉
第8区	7.98km	松山 克 敏
第9区	6.985km	米 山 諒



中央公民館えみりあギャラリー

ギャラリーへ展示する 作品を募集!

松川町に関係するグループや個人が制作した作品を多くの方に見ていただけるよう、展示作品を募集します。

協力いただける団体(方)は、公民館までお知らせください。

展示場所 中央公民館えみりあギャラリー

展示期間 作品点数により応相談

募集期間 随時受付

連絡先 中央公民館えみりあ

電話 0265 (36) 2622

まつかわ寄席

三遊亭ときん 独演会!

2017年3月に真打昇進した新進気鋭の落語家さんが素晴らしい芸を披露してくれます。

期日 7月14日(土)

午後1時開場 1時半開演

会場 松川町中央公民館
えみりあホール

申し込み不要、入場無料です。
お誘い合わせてご来場ください。



徹久さん

第一印象のとおり、口数が少なく物静か。大学時代は化学専攻で、農作業着より白衣が似合いそう。これから〇八丁手八丁の先輩方との勉強会が待っています。



まつかわ町

みゆきさん

まわりの人みんな自然に笑顔になる、そんな春の陽のようなほっこり感と、ゆっくり話しかける優しいことば。自家栽培の果物を使ったスイーツがカフェに並ぶのももつぷです。

今回ご紹介させていただいたのは、大場徹久さん・みゆきさんのお二人です。
 徹久さんは千葉、みゆきさんは埼玉から松川町に來られ縁あってご結婚されました。松川町が「結びの神」となったなんて、嬉しい限りです。
 徹久さんは、京都で会社員をしながら、飯田市のワーキングホリデーに参加。そこで食べたりんごがおいしかった事から、松川町でりんご農家を目指すこと。
 みゆきさんは、お母さまが松川町出身ということで、地域おこし協力隊員として活動され、幅広い年齢層の人たちと多くの交流をもたれました。
 現在、徹久さんはりんご他の果樹栽培、みゆきさんはカフェの開店と忙しい毎日を過ごされています。

しゅんげふひがし

「六年一組 春の俳句大会」

松川中央小学校 六年一組

私たちのクラスでは、国語の授業の中で、俳句大会を行っています。俳句大会は季節ごとに行っており、この「春の俳句大会」が五回目になります。私たちの俳句大会のやり方ですが、まずはその季節の俳句を一人二句作り、投句します。ただし、名前は書かずに出します。そして、全員分の俳句が出そろったら、一覽にし、「いいなあ！」と思う句を一人三句ずつ選びます。そして、自分の選んだ句を発表していき、集計し、優秀句を五句選んでいます。今回選ばれた五句はこちらです。

最優秀句 桜散る 次咲くころは 中学生

優秀句 聞こえる 春のあしおと うららかに

入選句 新学期 勇気を出して ドア開ける

入選句 春風が いろんな出会い つれてくる

入選句 春になり ティッシュが手元をはなれない

自分たちで投票するだけでなく、学校のいろんな先生や、家族にも投票してもらっています。さらには、家族に投句してもらってスベシャルバージョンな回もあります。自分の句を選んでもらった時はとても嬉しい気持ちになります。また、選ばれた句が、いったい誰の作った句なのかかわからないので、ドキドキして楽しいです。次は夏の句会が予定されているので、今から楽しみにです。



縄文のビーナスに魅せられて

声

「縄文のビーナスさん」におめにかかってきました

文化協会研修旅行



大きく豊かな腰。張りつめた丸い尻。これでもかというほど太い足。小さく縁取られた顔に、つり上がった細い目と小さな口。「縄文のビーナス」はたくましい体に謎めいた顔を乗せて、ガラスケースの中に立っていた。

逆三角形の顔。鋭い目(？)。どっしりとした上半身。そして、ふとくい足。隣に立つのは「仮面の女神」。2体が圧倒的な存在感をもって、見るものに迫る。「みごと」としか言いようのない

造形。前者は縄文中期の、また後者は縄文後期の作だという。いかなる意図から、こうしたデフォルメされた像が誕生したのか。

多種多様な土器の数々も、見ていて飽きることがない。

「尖石縄文考古館」から始まった今年の研修旅行、次の見学場所は「八ヶ岳総合博物館」。1階ロビーには機械織り機が並び、山麓の暮らしの様が分かりやすく展示されていた。また、金メダリスト小平奈緒

さんに関する展示も特別に用意されていた。

諏訪湖畔にある、おいしいと評判のお蕎麦屋さんで昼食をとり、午後の最初の見学場所は「原田泰治美術館」。

穏やかで、温かくて、懐かしくもあり、微笑ましくもある絵の数々。確かにこんな老人がいた。こういう家並みが石垣が田畑が野山が、かつてあった。確かにあった。失ってしまったものの大きさに、改めて感じ入ったひととき。

9月9日(日)開催の大会に、5月1日現在930人の方より申込みをいただいています。町民の皆さまにおかれましては、ご家族ご友人をお誘いいただき是非ご参加ください。実行委員一同心よりお待ちいたしております。

ハーパンマンラン

南信州まつかわハーパンマンランに是非ご参加ください！



大会事務局が町民体育館に移動しました。

専用電話 48-6713

FAX 48-6714

よろしく願います。



最後の見学場所は「神長官守矢資料館」。守矢家は、古代から明治の初めまで、諏訪上社の「神長官」という役職を勤めてきたということ、数多くの貴重な古文書を有する。しかし、最も印象深かったのは建物。屋根は上諏訪産の石(鉄平石)で葺いてあるそうだ。

年1回の研修旅行。今年はこんな風に、茅野・諏訪方面の旅を実施しました。3月の寒い時期で、参加者も17名と、やや少なうはありました。が、急がずあわてず、ゆったりのおんびり。心に感じるものが多い、素敵な旅になりました。

会長 木村 寛

2022年

今年も、待ちに待った温かい季節がやってきました。私にとって季節の変わり目は大変な時期なのです。

朝起きると、くしゃみを連発し、鼻水じゅるじゅる・・・と大変な騒ぎになります。

その原因は、寒暖差による影響で、神経が刺激されて出るくしゃみらしいです。きつと私と同じような方、いっぱいいるのではないのでしょうか。症状が花粉症と似ているから、「自分は花粉症だ」と思い込んでいませんか。薬局にとってみれば、マスクや目薬の売り上げが伸び嬉しい時期でしょう。(笑)

身の回りで「花粉症」というワードをたくさん聞いて、「自分は花粉症だ」と思い込んでしまおうと花粉症の始まりです。

風邪も同じです。自分が「風邪かもしれない」と思い込んだら、風邪をひきます。

人間って面白いですね。良い方向にも悪い方向にも自分をコントロールできるのです。

ぜひ「良い方向に思い込む」ことに挑戦してみてください。

中島李野

公民館報
「まつかわ」
第 655 号
平成30年5月15日

発行所 松川町公民館
責任者 小 沢 誠
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp

飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)